

令和7年度第34回千葉県高等学校女子サッカー選手権大会 総評

【はじめに】

令和7年6月1日（日）、8日（日）、14日（土）の日程で予選リーグが行われ、9月7日（日）、14日（日）、21日（日）、27日（土）、10月12日（日）の日程で決勝トーナメントが行われた。22チーム（単独チーム19チーム、合同チーム3チーム）が、千葉県の頂点を目指して試合を行った。

ベスト4進出校は暁星国際、流経大柏、市立船橋、幕張総合の4校で、準決勝が小さな森の家フィールド、決勝・3位決定戦が東総運動場にて行われた。優勝が暁星国際、準優勝が幕張総合、第3位が流経大柏という結果にて、千葉県高等学校女子サッカー選手権の幕を閉じた。優勝した暁星国際は千葉県代表として、令和7年度第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会に出場する。また準優勝の幕張総合、第3位の流経大柏は令和7年度第34回関東高等学校女子サッカー選手権大会に出場する。

【今大会を振り返って】

今大会のベスト8は、公立2校（市立船橋、幕張総合）・私立6校（暁星国際、流経大柏、八千代松陰、拓大紅陵、千葉明德、クラーク記念国際）である。所属リーグとしては関東リーグ所属が3校、千葉県1部リーグ所属が4校、千葉県2部リーグ所属が1校である。

準決勝・決勝・3位決定戦の4試合では合計14得点がうまれた。4試合全てで1点差のゲームとなり、スコアでも内容においても拮抗した好ゲームであった。特に攻撃面では各高校がチーム戦術を浸透させ、そこに個々の技術を織り交ぜた多彩な攻撃を披露した。ゴールを奪うための優先順位が整理されており、DFラインの背後、DFラインとGKの間を狙って、正確なロングボールやクロスにスピードのある選手が飛び出すといった、チーム戦術と個人戦術の融合こそ、得点が多く生まれた要因の一つであると考えられる。優勝した暁星国際はボール非保持時にハイラインを設定し、奪ってからショートカウンターでゴールに迫るプレーが多く見られた。特に攻守の切り替えがチームで徹底されており、前線中盤の守備意識、そしてGKを中心としたDFラインの守備の堅さが優勝の決め手であった。惜しくも準優勝となった幕張総合も昨年度から着実に力を付けてきており、3大会振りとなった決勝の舞台でも堂々としたプレーを披露した。特に中盤の守備の強度が高く、良い守備から良い攻撃に繋がられていた。

今後は関東リーグ、県リーグを通じて千葉県内の各チームが切磋琢磨し、更に千葉県の女子サッカーは発展し力を付けていくであろう。千葉県で頂点に立つことは容易ではなくなってきており、次年度も更に激しい競争が予想される。

【大会運営について】

今大会は運営に携わっていただいた先生方や補助生徒のお力もあり、予定通りの日程で行うことができた。特に決勝戦・3位決定戦は昨年度同様スタジアムでの開催であったが、昨年度以上に多くの保護者や関係者の方々、卒業生・中学生が見守る中で、見応えのある好ゲームを展開できたことは特筆に値する。また、今大会が大きな事故やトラブルがなく無事に終えられたことは、大会の運営に携わっていただいた全ての方々のお力によるものである。皆様方に感謝の意を表すとともに、優勝した暁星国際の栄誉をたたえて、令和7年度第34回千葉県高等学校女子サッカー選手権大会の総評とさせていただきます。

千葉県高体連サッカー専門部女子部技術 小林貴幸（千葉経済大学附属高等学校）